

## 「JENESYS2.0」

### 2015年度中国青年メディア関係者代表団第3陣

訪問日程 平成28年1月24日(日)～1月31日(日)

#### 1 プログラム概要

中国国務院新聞弁公室が派遣した2015年度中国青年メディア関係者代表団第3陣計55名が、1月24日から1月31日までの7泊8日の日程で来日しました。(団長=丁小鳴(テイ・ショウメイ) 中共中央委員会宣伝部 国際連絡局 巡視員)

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は東京都をはじめ、神奈川県、高知県、愛知県を訪問し、分団ごとに「おもてなし文化(第1分団)」、「食の安全(第2分団)」をテーマとし、関係機関・団体との交流、関連施設の視察を行うとともに、日本のメディアへの訪問・交流や、自由取材のほか、さまざまな分野の視察見学を通し、クールジャパンに直接触れ、包括的な対日理解を深めました。

#### 2 日程

##### 1月24日(日)

羽田国際空港より入国、東京タワー見学、オリエンテーション

##### 1月25日(月)

第1分団：茶道体験及び日本人のもてなしに関するレクチャー、  
JAL 客室教育・訓練センター視察

第2分団：厚生労働省による講義、パソナアーバンファーム視察、浅草見学

共通：歓迎会

##### 1月26日(火)

第1分団：(株)日本経済新聞社訪問・交流、皇居見学、TEPIA 先端技術館視察、  
国会議事堂視察

第2分団：横浜市内見学・自由取材、神奈川新聞社訪問・交流

##### 1月27日(水)

第1分団：高知県へ移動、高知県庁による講義、日本文化体験(和風温泉旅館宿泊)

第2分団：愛知県へ移動、愛知県庁による講義、日本文化体験(和風温泉旅館宿泊)

##### 1月28日(木)

第1分団：観光ボランティア視察・交流・自由取材(高知城ほか)  
高知市清掃工場視察、高知よさこい情報交流館視察

第2分団：愛知ヤクルト工場視察、名古屋城見学、トヨタ産業技術記念館視察

##### 1月29日(金)

第1分団：(株)テレビ高知訪問・交流、桂浜見学、横山隆一記念まんが館見学

第2分団：(株)CBC テレビ訪問・交流、名古屋市食品衛生検査所(食品安全・安心学  
習センター含む)及び名古屋市中央卸売市場本場視察

##### 1月30日(土)

東京へ移動、商業施設視察、皇居見学(第2分団)、歓送報告会

1月31日(日)

羽田国際空港より出国

### 3 写真

<b>&lt;共通&gt;</b>	
	
1月25日 歓迎会 中原邦之外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官の挨拶(東京都)	1月25日 歓迎会 団員と歓談する江田五月日中友好会館会長(東京都)
1月25日 歓迎会 中原邦之外務省亞洲大洋州局中国・蒙古第一課地域調整官致辭(東京都)	1月25日 歓迎会 江田五月日中友好会館会長と訪日団団員暢談(東京都)
	
1月30日 歡送報告会 丁小鳴団長の訪日総括(東京都)	1月30日 歡送報告会 団員の訪日成果発表(東京都)
1月30日 歡送報告会 丁小鳴团长做访日总结(東京都)	1月30日 歡送報告会 团员介绍访日成果(東京都)

<第1分団>



1月25日 茶道体験及び日本人のもてなしに関するレクチャー(東京都)

1月25日 茶道体験及有关日本人待客文化的講座(東京都)



1月25日 茶道体験及び日本人のもてなしに関するレクチャー(東京都)

1月25日 茶道体験及有关日本人待客文化的講座(東京都)



1月25日 JAL 客室教育・訓練センター視察(東京都)

1月25日 視察 JAL 乗務員培训中心(東京都)



1月26日 (株)日本経済新聞社訪問・交流(東京都)

1月26日 訪問株式会社日本经济新闻社(東京都)



1月26日 TEPIA 先端技術館視察(東京都)

1月26日 視察 TEPIA 先端技術館(東京都)



1月26日 国会議事堂視察(東京都)

1月26日 視察国会议事堂(東京都)

	
<p>1月27日 高知県庁による講義(高知県)</p>	<p>1月27日 高知県庁による講義(高知県)</p>
<p>1月27日 听取高知县厅讲座(高知县)</p>	<p>1月27日 听取高知县厅讲座(高知县)</p>
	
<p>1月28日 観光ボランティア視察・交流・自由取材(高知県)</p>	<p>1月28日 観光ボランティア視察・交流・自由取材(高知県)</p>
<p>1月28日 与志愿者向导一起视察・交流・自由采访(高知县)</p>	<p>1月28日 与志愿者向导一起视察・交流・自由采访(高知县)</p>
	
<p>1月28日 高知市清掃工場視察(高知県)</p>	<p>1月28日 高知よさこい情報交流館視察(高知県)</p>
<p>1月28日 视察高知市清扫工厂(高知县)</p>	<p>1月28日 视察高知 YOSAKOI 信息交流馆(高知县)</p>

	
<p>1月29日 (株)テレビ高知訪問・交流(高知県)</p>	<p>1月29日 (株)テレビ高知訪問・交流(高知県)</p>
<p>1月29日 访问株式会社高知电视台(高知县)</p>	<p>1月29日 访问株式会社高知电视台(高知县)</p>
	
<p>1月29日 桂浜見学(高知県)</p>	<p>1月29日 横山隆一記念まんが館見学(高知県)</p>
<p>1月29日 参观桂浜(高知县)</p>	<p>1月29日 参观横山隆一纪念漫画馆(高知县)</p>
<p>&lt;第2分団&gt;</p>	
	
<p>1月25日 厚生労働省による講義(東京都)</p>	<p>1月25日 厚生労働省による講義(東京都)</p>
<p>1月25日 听取厚生劳动省讲座(东京都)</p>	<p>1月25日 听取厚生劳动省讲座(东京都)</p>

	
<p>1月25日 パソナアーバンファーム視察 (東京都)</p>	<p>1月25日 浅草見学(東京都)</p>
<p>1月25日 視察Pasona 都市农场(東京都)</p>	<p>1月25日 参观浅草(東京都)</p>
	
<p>1月26日 横浜市内見学・自由取材(神奈川県)</p>	<p>1月26日 神奈川新聞社訪問・交流(神奈川県)</p>
<p>1月26日 横浜市内参观・自由采访(神奈川県)</p>	<p>1月26日 访问神奈川新闻社(神奈川県)</p>
	
<p>1月27日 愛知県庁による講義(愛知県)</p>	<p>1月28日 愛知ヤクルト工場視察(愛知県)</p>
<p>1月27日 听取爱知县厅讲座(爱知県)</p>	<p>1月28日 视察养乐多爱知工厂(爱知県)</p>

	
<p>1月28日 名古屋城見学(愛知県)</p>	<p>1月28日 トヨタ産業技術記念館視察(愛知県)</p>
<p>1月28日 参观名古屋城(爱知县)</p>	<p>1月28日 视察丰田产业技术纪念馆(爱知县)</p>
	
<p>1月29日 (株)CBC テレビ訪問・交流(愛知県)</p>	<p>1月29日 名古屋市中央卸売市場本場視察(愛知県)</p>
<p>1月29日 访问株式会社CBC电视台(爱知县)</p>	<p>1月29日 视察名古屋市中央批发市场本场(爱知县)</p>
	
<p>1月29日 名古屋市食品衛生検査所視察(愛知県)</p>	<p>1月30日 皇居見学(東京都)</p>
<p>1月29日 视察名古屋市食品卫生检查所(爱知县)</p>	<p>1月30日 参观皇居(东京都)</p>

#### 4 参加者の感想（抜粋）

##### 【第1分団】

○ メディアに携わる一人として、外国の同業者と交流ができたことは、今回の最大の収穫である。さまざまな理由により、中国国内では得られる情報に限界があり、私たちは国際的な視点から問題点を考察することが十分にできない。外国の同業者と交流し、業務やその他の問題について互いに検討し、意見交換することで、顕著な収穫が得られた。日本側の熱意ある招聘に感謝する。スタッフのご苦勞とご努力に感謝する。

○ 文化というものの概念が、漠然としていて表面的なものだとするならば、おもてなし文化は具体的であり、日本国民一人一人の一挙手一投足に現れていると言えよう。

日本では、おもてなしとは、会った時に深くお辞儀をし、呼び掛ける時は心からの微笑みをたたえ、常にまずは「すみません」と声をかけ、常に最も良い面を客人に与えることである。

8日間の滞在中、すべてのホテル、すべての訪問先、同行したすべてのスタッフから、彼らの行動を通じて、日本のおもてなし文化が一つまた一つと体现されていた。

中国は五千年の歴史を持つ礼儀の国であり、“もてなし上手な家にはお客が絶えない”という古い言葉がある。私は、滞在中に見聞したことを、家族や同僚や友人に伝え、おもてなしの国日本があなたを待っているよ、と伝えたい。

“遠くの親戚より近くの他人”という。私は中日友好の使者として、中日の文化交流に微力を尽くしたい。

○ 今回、8日間という短い期間だが、日本のおもてなし文化について視察した。伝統的な茶道文化の伝承と発展からも、現在の企業内における精神の確立からも、日本国民が細部の頂点まで追求する姿勢がにじみ出ていた。まさに時々刻々あまねく広がる細部のこだわりがあったから、日本という素晴らしい国を築き上げ、人に感動を与える思いやりの心と生真面目な態度が導かれたのだろう。この点において私は非常に感服し、また賛同する。微力ではあるが、まず自分自身から、日本の真面目に取り組む態度、命がけでやり遂げる信念、自己を厳しく律する精神を見習い、そしてその素晴らしさを周囲に伝えたい。いつの日か、中国の道路もトイレも、人々がそれぞれきれいに清掃し、きっちりと仕事をする姿を、世界の人々から認めてraitたい。

あらためて、全行程において私と仲間を助けてくれた日本の友人に感謝したい。街角で積極的に通訳して手伝ってくれた街の人々、夜中にホテルまで送り届けてくれた運転手、高知の味覚をご馳走し味わわせてくれた商店主、そして多くの日本の一般市民の皆さんが、私に身をもって日本の“おもてなし”文化を体験させてくれたことに、深く感謝したい。人と人との交流は、言葉を超え、文化、国家、政治を超えて、純粹で友好的であり、誠実で善良であり、世界の根源である。

日本側の招聘と接待に感謝する。私はとても近い距離で日本の独特な魅力を体験することができた。ありがとうございます。

○ 近年、モバイルインターネットサービスの急速な発展により、利用者がモバイル端末へと移行していく状況が顕著になってきている。この状況において、既存メディアは

そのスタイル転換が大きなプレッシャーとなっている。日本経済新聞社の訪問で、日本のメディアも同様のプレッシャーに直面していることを知り、さらにすでに自らの発展の道筋を模索し、成功していることを知った。例えば、日本経済新聞社は新聞契約と電子版サービスをパッケージ販売し、デジタル部門とネット部門の収益を実現している。これはまさに、日本人の新聞購読の習慣にマッチしたものであり、利用者の定義付けと細分化された商品とで生み出された付加価値の高い的確なサービスが、利用者に認知され、受け入れられている。電子版の料金が高くても、ますます多くの若い高収入層に歓迎されており、安定成長かつ将来性のあるメディア運営スタイルとなっている。

○ 私が参加したグループのテーマは“おもてなし文化”で、最も印象に残ったのは茶道と日本航空、高知県の訪問である。茶道文化は日本民族の礼儀の文化を体現しており、茶道に精神を融合させる歴史の積み重ねが、多くの手順を経て、客人への礼節を表すとともに、精神の育成にもつながっていることには、まさに感嘆する。日本航空が倒産の危機に陥った後、“おもてなし”の水準を高めることで企業の復活を遂げたという事例も、称賛至極である。高知県民の情熱とホスピタリティは至るところで感じられたが、特にテレビ高知では、会社の運営状況を真摯に紹介してくれ、局内の隅々まで余すところなく見学させてくれて、団員は皆感動した。また、随行した日本側のスタッフたちの熱心で緻密な仕事ぶりも忘れられない。帰国後は、ネットを通じて日本の人々の情熱と友好の心を伝えたい。一部にある日本人に対する一方的な排除や間違った認識を積極的に正し、中日友好のために微力を尽くしたい。

○ 参加する前は、日本人と中国人とは一定の距離感があり、それは歴史や政治的な要因によって生じていると考えていた。8日間の滞在を通じて、私はこの認識を改め、日本人の情熱は忘れがたいものとなった。

日本のメディアは専門性が高く、実力も素晴らしい。例えば、日本経済新聞社の報道は内容が非常に深く、専門性が高く、付加価値も高い。実力の強さは一つの会社が一つのマルチメディアでもあることに表れており、内容が確実であるとともに、その発信形態も受け手の動向に合わせて転換させ、情報発信形態における方式転換のプレッシャーがない。この点は、中国のメディアを上回っている。

○ 今回の訪日で最も印象に残った内容は四点ある。

一つは、日本の至るところで細やかに体験できるヒューマンケアである。例えば、ホテルのバスルームにある鏡は、部分的に温度を保つ箇所があり、入浴後の蒸気で鏡面が曇らないようになっている。どのトイレも、ひいては公衆トイレまでもがインテリジェントトイレで、壁には音消し用の流水音装置がついている等々、その細やかさはとても行き届いていて人に優しい。

二つ目は、日本の環境の清潔さレベルと、日本人の環境保護意識である。街にはほとんどゴミ箱がなく、清掃作業員もいないのに、ほとんどゴミがない。皆が自覚してゴミを家に持ち帰り、分別処理するからである。どこに行っても極めて清潔なことは、驚嘆に値する。

三つ目は、茶道である。日本で最も正統派である“裏千家”の茶道を体験する機会に恵まれた。ゆったりと静かな時が流れる中、一杯のお茶を待つ時、“一期一会”という言葉の意味が深く体感できる。静かに、集中し、穏やかに、まるで修行のひとコマのようだ。心には禅が必要であり、生活にも儀式感が必要である。

四つ目に、日本人の礼儀と専門性とホスピタリティを挙げたい。全行程を同行した日本側のスタッフは、情熱とプロ意識をもって接してくれ、また、高知市でサポートに来てくれたボランティアの面々、特に白髪のNさんは、私たちが高知市を離れる日に朝早く見送りに来てくれた。私たちにずっと手を振る彼の姿がだんだん小さくなっていく時には、思わず涙がこぼれそうになった。そして、自由取材の際に出会った一般市民の皆さん、焼き鳥をご馳走してくれた老人や、私たちの質問に熱心に答えてくれた出店の商店主等々…すべてが私に、日本人の友好とホスピタリティを体験させてくれた。今回の経験は、生涯忘れられない。

○ 最も印象に残ったことは、日本人の資質の高さである。すべての人が自覚して社会の公共秩序を守り、他人のことを考えている。社会の発展は環境保護を前提に考えられ、ほとんどの人が皆、環境保護意識を持っている。社会全体が誠実を基本として発展し、環境保護を前提とすることは、すべての人にとって、また、次の世代にとっても良いことである。企業も社会組織も政府も、非常に強い危機意識を持って将来を案ずることは、将来の発展にとって良いことである。私はこれらすべてが、社会の発展にとって必要な条件だと考える。また同時に、日本人であれ中国人であれ、ともに非常に善良であり、平和な環境下で簡素で幸せに暮らしたいと願っていることを実感した。幸福の定義とは、健康な身体、自給自足の生活、家族の平安と喜び、ご近所との睦まじい付き合いであり、平和はすべての人の共通の願いである。しかし同時に、両国民の間には、歴史やメディアの報道の偏り、交流不足などの要因で、相互に誤解が生じており、突っ込んだ話し合いが不足していることも感じた。両国民が交流を深め、理解を増進することを私は願う。帰国後は、日本人の資質に関するエピソードや環境保護面での有益な経験などを友人に伝え、今後の報道でも取り上げたい。さらに、日本人の友好の気持ちを私の周囲の人々に伝えたいと思う。

○ テレビ高知の訪問で印象に残ったのは、先進的な設備と業務効率のずば抜けた高さである。100人余りのテレビ局職員のうち、取材編集スタッフはわずか十数名しかおらず、それで24時間の番組放送を支えている。しかも撮影手法や技術も一流であり、これは学ばねばならない。また、市民を自由取材した際、市民たちの幸福感の定義にも感動した。やることがあり、健康で、友達がいる…これが彼らの幸福なのだ。シンプルだが、感動させられた。

○ 日本人のおもてなしは彼らなりの体系が作られている。中国人は客人をもてなす時、よく“家に帰ったようにあれこれもてなす”というが、これは自分の“心積もり”を明確な形に表現して、相手に見せることである。これに対して日本人は、“不言実行”を美德とし、気持ちを心の中にしまっておく。

今回の訪日のテーマはおもてなし文化である。“おもてなし”とは、客人を接待する時に、どんな時もねんごろに細やかに、かつ恭しく礼儀正しく、一心に客人のために何かをする、あるいは酒肴を提供する、宿舎を提供する、贈り物をするのであり、自分の態度も最良にすることだと感じた。したがって、日本の“おもてなし”とは、待遇、接待、態度、措置の総称だと感じた。

#### 【第2分団】

○ 最も印象に残ったのは、第一に、日本人の礼儀、秩序、自分や生活を律することである。次いで、日本が食品安全に対して取り組んでいる努力と厳格な管理である。スーパーの果物は輸入品か国産品かが明確に分類され、野菜や果物には産地証明や生産者の名前までが明記されている。第三は、日本の科学技術である。トイレに設置されているトイレットペーパーはすべてリサイクル紙で作られている。日本の道路や高架橋にはどれも工事の名称、工事期間などが詳細に掲示され、橋梁の落下防止装置が固定され、橋脚を固定するなどの耐震対策が施されている。

帰国後、周囲の人々に伝えたいことは、第一に、日本は礼儀正しい国で、ホスピタリティがあり、学ぶべき点がたくさんあるということ。そして、物事に厳格に取り組み、自分への要求が高く、どんなことにも最善と美学を尽くし、これらが学ぶべき点だということである。第二に、日本人は環境を保護し、感謝の心を持っているということである。子供たちは、野菜や果物が身を犠牲にして人類に栄養を与えてくれることに感謝するよう教育され、小さな子でもゴミの分別ができ、環境を大切にしている。

私たちは、いつまでも過去の苦痛を回顧し続けることを望んでいない。歴史を鑑とし、未来に向かう精神で、中日友好をより多く伝え、相互に足りない部分を補い、中日友好の新たなページを記すことに努力したい。

○ 訪日前、日本という国について最初に思い浮かぶのは中国への侵略戦争であり、常にあまり良くない印象、思いがあった。今回の視察と交流を通じて、日本人の礼儀、物事に真面目に取り組む姿勢、科学技術に触れ、日本に対する友好の気持ちと、より深く理解したいという気持ちが生じた。

1. 食品安全について。日本の食品に関するさまざまな現状を知り、日本では食品がどのように市場に届けられるのか、どのように家庭に届くのか、政府の食品安全に関する保障の成功例や経験を理解した。また、遺伝子組み換え食品の問題において、日本では市民に状況を知らしめ、判断できるように啓蒙活動を行っていることを知った。
2. 日本のニュースメディア。神奈川新聞社と CBC テレビの訪問で、日本のメディアの現状と管理の状況を知った。既存メディアとニューメディアとの融合発展に関する問題では、日本も中国のメディアと同様のジレンマを抱えている。機会があればより多く交流して互いに学びあい、協力を強めるべきだと思う。
3. 愛知県の風土と人情。ボランティアとの交流で、日本の都市の発展と都市建設、市民の落ち着いた幸せな生活を知ることができた。

○ 今回の訪日で、日本人がプライベート空間を重視し、一般的な社会秩序を遵守していることに強い印象が残った。東京は、日本で、あるいは世界的に見ても非常に人口の多い巨大都市であり、街中を行きかう車の量も多い。しかし、東京では車が列をなしたり割り込んだり渋滞したりクラクションを鳴らすことがない。逆にスピードが出ているにも関わらず、人が道路を横切る時には車は停車し、歩行者を優先させる。しかしそれでも、その“譲る”行為によって都市の交通が乱れることもなく、人も車も待つべきところで待ち、スムーズに流れている。人口密度がこれほどまでに高く、経済もこれほど発達している都市にあっても、運転手の自律と歩行者の交通規則の順守によって、繁華街エリアの交通をきちんと保つことができる、このことは、非常に考えさせられることであり、学ぶべきことである。

またトヨタ産業技術記念館では、バイオリンの演奏が上手なロボットにとっても好感を持った。グローバルに強大な実力を持つ自動車産業の大物であるトヨタが、自社の技術のアイデアや技術力を、未来の生活に関係する先端技術に、より大量に投じるということは、企業の責任感の体現である。

そしてもう一つは、まさに日本人が普遍的に持つ時間の概念である。当然ながら、緊密に組まれている訪日スケジュールと無関係ではないものの、常に開始と終了が“きちり抑えられ”ており、この時間順守の感覚は感嘆に値する。時間と秩序を守ることは、精密なロボットや技術を研究開発することと一連につながっているのだ。

機会があれば、私も周囲の人々にこうした情報を伝え、周囲の人々が日本という国をより理解できるよう手助けしたい。

○ ニュースメディア発展の現状において、日本では依然として紙媒体への依存が高いことから、日本の新聞は広告料金や購読部数が減少しているとは言っても、その状況は中国が直面している現状ほど過酷ではない。まさにこの要因により、日本の既存メディアとニューメディアの融合のスピードは中国ほど早くはない。しかし別の角度から見ると、日本のメディア関係者が創出しているメディア関連商品やその内容に対する注目度は、中国より進んでおり、この点は私たちも反省し、学ぶべきである。食品の安全管理の面では、日本では各行政部門の職責が明確であり、食品企業のコンプライアンスも強く、関連条例も整っており、実効性も高い。名古屋市中央卸売市場の視察を通じて、日本では食品管理や生産、流通に従事する人は、細かな部分に至るまで、関連規定を徹底していることが分かった。

○ 私にとって、初めての日本訪問である。8日間の視察と交流を通じて、まさに“百聞は一見に如かず”を強く実感した。日本側の心の込もったご手配と、日本政府、企業、メディア、一般市民とのFace to faceの交流を通じて、日本について明確に、深く理解することができ、大きな収穫があった。

1. 感謝と温かい気持ち。交流を通じて、日本では小学生から“食育”の授業があることを知った。子供たちに、農家が一生懸命働いて穀物を栽培していることを教育し、農家への感謝を教え、食物に感謝し、食物が自己の生命と引き換えに人間の命をつないでいることを教えている。大人は社会に対して、自分が他人のために役立てる

ことを感謝する気持ちを持っている。人との会話で最も多く使われる言葉は“ありがとう”である。

2. PR意識の強さが、日本特有のカルチャーコードを生み出している。8日間の間に、私たちは16カ所の組織を訪問した。そして、どこでも詳細なPR体系を持っていることを発見した。書面の資料は文章もイラストも素晴らしく、映像資料は生き生きとしており、実例や実物を活用して企業イメージをアピールすることに長けている。トヨタ産業技術記念館で『カノン』を演奏したロボットや、百年前の紡績技術を再現した紡績機、愛知ヤクルト工場の“かわいい”アニメ等々、いずれも強く印象に残った。

私はこれらの美しい印象を中国に持ち帰り、家族や同僚、友人に伝え、彼らがより一層日本を知り、日本文化を感じられるようにしたいと思う。

○ 訪日前：日本に来たことはなく、ただ歴史の教科書から日本の歴史や軍事、礼儀などを知るだけだった。

訪日後：最も印象深かったのは、日本人の秩序であり、東京の都市部は特に際立っていた。公共の場所の清潔さや静かさ、秩序正しさが強く印象に残った。これは名古屋ではそれほど顕著ではなかった。また日本人の科学技術やイノベーション意識も強く印象に残った。

1. 専門分野：紙媒体のメディア関係者として、神奈川新聞社の訪問にとっても期待していた。説明と見学、質疑応答を通じて、インターネットの普及の下で紙媒体がいかに生き残るかについて、新たな発想を得られた。神奈川新聞社は地元住民に立脚し、地元住民との緊密性を重視すると同時に、ニューメディアのプラットフォームを構築する過程で、30歳以下の若年層読者を引き付けるべく、かわいいイメージキャラクターを導入した。これは非常にクリエイティブな発想である。紙媒体商品の生産過程では、実のところ、世界中の記者も編集者も、その方法・方式や、直面する難題や苦悩はほとんど似通ったものである。交流は互いの考えを活性化させることが可能となる。
2. 視察テーマ：第2分団の視察テーマは食の安全であり、厚生労働省、愛知県庁、名古屋市食品衛生検査所を訪問した。滞在中、折しもカレー店の食品事件が発生しており、上述の視察先及びメディア各社を訪問する際に、具体性を持つことができた。日本側の説明によれば、日本は食品安全に関しては間違いなく多大な努力をし、さらに良好な効果も上げているとのことである。

○ 訪日前、日本と日本人に対する印象は、主に国内の各種メディアや訪日経験のある友人の話によるものであった。特に印象に残っているのは、友人たちの話す日本の社会の文化程度やおもてなしのこと、あるいは、メディアが報道する中日関係の各種問題、日本人の中国に対する態度といった内容である。訪日後は、日本の経済や文化の発展レベルや環境保護、食品安全などの改革や建設、そして国民の資質が強く印象に残り、好感度が増した。

日本のメディア分野の発展の状況と食品安全業務の発展の水準を理解するという目標をもって、神奈川新聞社や CBC テレビなどで同業者と深く交流を行った。中日双方の、特に日本の既存メディアが、インターネット時代に生じている変化への対応や選択している対応策、また、営業モデルの刷新、番組の制作放送方法、日本のテレビメディアの発展について深く理解することができた。テーマ視察の面では、愛知ヤクルト工場などの視察を行い、またボランティアのサポートを得て一般市民の食品安全に関する考え方などを知ることができた。最近名古屋市で発生した食品安全問題の事件とリンクして、厚生労働省などの行政官から政府の改革の紹介を受け、日本の食品安全に関しても、客観的かつ具体的に理解することができた。中日間でメディア協力交流を実施し、食品安全の制度建設などの面で相互に学びあうことができるだろうと確信する。今回の交流では大きな収穫があったが、全体を通してみると、一般市民、特に青年層との交流の機会がやや少なかった。今後、機会があれば一般家庭を訪問し、青年層の人々に取材し、若者の生活について理解できれば良いと思う。

○ 日本の労働者は一つの事業に専心する。例えば、パソナアーバンファームや名古屋市食品衛生検査所では、職員は皆、農業振興と一般市民の関心を喚起するために、特に若年層の農業に対する関心喚起のために、限られた空間で農作物を栽培し、かなりの程度で自給自足し、農業振興を一種のカルチャーコードにしている。名古屋市食品衛生検査所では、一般市民の食卓の安全を確保するために非常に繊細で専門的な作業をしており、しかも日本全体の食品安全業務のために、リスクの相互補完メカニズムを導入し、消費者に施設を参観させ、企業と行政監督と消費者の三者が互いに連動して、食品安全のプロセスの透明性を高めている。これは企業のコンプライアンスに有益であり、行政の監督をより客観的なものにし、管理を行き届かせ、消費者も理性的に対応できるようになる。

さらに、日本の道路は非常に清潔で、毎日清掃する必要もない。このことから、日本人が公共衛生の環境維持の自覚が非常に高いことが見て取れる。